



2026年9月29日

会社名 株式会社データ・アプリケーション
代表者名 代表取締役社長執行役員 安原 武志
(コード番号：3848)
問合せ先 執行役員 経営企画管理本部長 矢下 秀行
(電話：03-6370-0909)

2027年3月期第1四半期決算 質疑応答集

この質疑応答集は、2026年8月12日（水）の2027年3月期第1四半期決算発表以降において、株主・投資家の皆様からのお問い合わせおよび1on1ミーティングなどにていただいた主なご質問をまとめたものです。当社のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

【業績について】

Q.2027年3月期第1四半期を振り返って、どのように評価されていますか？

A.当第1四半期は、売上高1,122百万円（前年同期比18.5%増）と増収を達成しました。ソフトウェア事業において、サブスクリプションの大型案件の受注に加え、受注件数も堅調に推移したものです。一方、営業損失40百万円を計上し、利益面では厳しい結果となりました。これは、原価率が高いシステムインテグレーション事業の売上増加に伴い全体での原価率が上昇し、粗利率が低下しました。概ね想定の範囲内で推移しており、現時点では通期業績予想の変更はありません。

Q.システムインテグレーション事業の売上高は前年同期比45.1%増と大幅に伸長しました。成長の要因を教えてください。

A.当社製品の導入拡大に伴いシステム構築需要が増加したことに加え、前年以前から進めていた案件の売上計上も寄与したことが要因となりました。

Q.AI関連事業が前年同期比33.1%増と好調に推移した要因を教えてください。

A.メロン社の需要予測サービス「KISS」の販促活動や、WEEL社においてもAI関連サービスの提供拡大に取り組み、生成AIやデータ活用に対する需要拡大を背景に、両社が堅調に推移したことが要因となりました。

Q.価格改定の効果が第1四半期業績に十分表れていないように見えますが、その理由を教えてください。

A. 新規契約は2025年4月から、既存契約は2026年4月の更新分から新価格を適用していますが、価格改定は契約更新のタイミングに合わせて順次適用されるため、第1四半期時点では効果が限定

的となっています。今後、契約更新が進むにつれて価格改定の影響が段階的に反映され、収益向上に寄与していく見込みです。

Q.前受金が前期末から増加していますが、その要因を教えてください。

A.主にソフトウェア事業におけるサブスクリプション契約や保守契約に伴うものです。継続収益の積み上がりにより前受金が増加しており、安定的な収益基盤の拡大につながっています。

Q.サブスクリプションへの移行を進める中で、メンテナンス売上が増加している理由を教えてください。

A.メンテナンス売上には、過去に販売したパッケージ製品に付随する保守契約が含まれています。サブスクリプション型販売への移行を進めていますが、既存契約に係るメンテナンス収益が継続していることから、足元ではメンテナンス売上が増加しています。

Q. 2027年3月期通期業績予想の達成に向けたポイントを教えてください。

A.当社では、新規販売については原則としてサブスクリプション型で提供しておりますが、サブスクリプション売上の積み上げが重要なポイントになると考えています。加えて、2026年4月から実施している価格改定の効果が契約更新に伴い段階的に反映されることも、収益性の向上に寄与すると見込んでいます。また、システムインテグレーション事業およびAI関連事業の成長も業績拡大を支える要素と考えており、これらの取り組みを着実に進めることで、通期業績予想の達成を目指してまいります。

【株主還元・財務戦略について】

Q.株主還元を強化する一方で、成長投資への影響はありませんか。

A.当社は株主還元を重視するとともに、中長期的な成長に向けた投資も継続していく方針です。現在は財務基盤も安定しており、人材採用やマーケティング活動に加え、M&Aなどの成長機会についても積極的に検討してまいります。

【人材戦略について】

Q.今後の人財確保および育成について、どのような取り組みを行っていますか。

A.当社グループでは、人財の確保と育成を重要な経営課題と位置付けています。事業拡大に向けて優秀な人材の採用を積極的に進めるとともに、育成体制の見直しを行い、グループ全体で早期戦力化に取り組んでいます。今後も採用・育成の両面に継続して投資してまいります。

【ご参考情報】

2027年3月期第1四半期 決算短信〔日本基準〕（連結）

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3848/tdnet/2871514/00.pdf>

2027年3月期第1四半期 決算補足資料

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3848/tdnet/2871548/00.pdf>

2027年3月期第1四半期 決算補足説明動画

<https://irtv.jp/channel/23794>

中期経営計画（2026年3月期～2028年3月期）策定のお知らせ

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3848/tdnet/2609241/00.pdf>

中期経営計画（2026年3月期～2028年3月期）説明動画

<https://irtv.jp/channel/19357>

中期経営計画（2026年3月期 - 2028年3月期）における財務方針変更について 説明資料

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3848/tdnet/2791840/00.pdf>

中期経営計画（2026年3月期 - 2028年3月期）における財務方針変更について 説明動画

<https://irtv.jp/channel/22959>

【株式会社データ・アプリケーション（DAL）について】(<https://www.dal.co.jp/>)

DAL は、1992年に UNIX 向けの製品をリリースして以来、EDI（電子データ交換）を中心にデータ連携分野において信頼性の高いパッケージソフトウェア「ACMS（Advanced Communication Management System）シリーズ」を提供し、国内の EDI ソフトウェア市場でリーダーシップを確立しています。企業間・部門間・クラウド・SaaS など分散したデータをボーダーレスにつなげるデータ連携ソリューションは、すでに3,000社15,000サイトを超える企業のミッションクリティカルなシステムで稼働しています。

今後は、個人と組織がともに成長し続ける DIGITAL WORK を実現するために、企業をつなげる、データをつなげる、人をつなげる、そしてナレッジ（知識）をつなげる、「つなげる」ために必要な基盤技術「DAL PLATFORM」を提供してまいります。

【HP】<https://www.dal.co.jp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/DataApplications/>

【X】https://twitter.com/dal_acms

【note】<https://note.com/dataapplications/>

＜本件についてのお問い合わせ先＞

経営企画管理本部
E-Mail : ir@dal.co.jp

※お問い合わせ内容の正確な記録および対応の一貫性の確保、公正な情報開示（フェア・ディスクロージャー）の観点から、お電話では承っておりません。

※当資料の内容には、将来に対する見通しが含まれている場合がありますが、実際の業績はさまざまな要素により、これら見通しと大きく異なる結果となり得ることをご了承下さい。また、会社の業績に影響を与え得る事項の詳細内容につきましては、決算短信の「事業等のリスク」をご参照下さい。しかしながら、業績に影響を与え得る要素は「事業等のリスク」に記載されている事項に限定されるものではないことをご留意下さい。

※DAL, ACMS, ACMS Cloud, ACMS Apex, AnyTran, E²X, WebFramer, RACCOON, OCRtran, Placul は、株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。

※本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。